

## 遺跡からわかる沖縄の旧石器時代

### 1 講座の内容

沖縄に人類が初めてやってきた旧石器時代は、沖縄の歴史の最初を飾る重要な時代で、約3万7千年前から1万年ごろまで続いた。当時の沖縄にはどんな人々がいて、どんな道具を使い、どんなものを食べ、どのように暮らしていたのか。近年の調査でもサキタリ洞での世界最古の釣針発見や、白保竿根田原洞穴での全身骨格の発見など、めざましい成果が続いている。本講座ではこうした遺跡調査からわかった旧石器時代のヒトと暮らしについて講義する。

### 2 講座の概要

- (1) 講師 藤田 祐樹 氏(国立科学博物館人類研究部 研究主幹)
- (2) 日時 令和4年1月12日(火) 14:00~16:00
- (3) 場所 南部合同庁舎4階会議室  
サテライト会場:国頭・中頭・島尻・宮古・八重山各教育事務所
- (4) 受講者数 33人(PC視聴者含む)
- (5) 共催 なし
- (6) プログラム
  - ・開会のあいさつ
  - ・講師紹介
  - ・講話
  - ・閉会のあいさつ



### 3 成果

- ・謎に包まれた沖縄の旧石器時代を考古学の視点から分かりやすく伝えられた。
- ・講師は最古の釣り針の発見者であり、発見時や釣り針と特定するまでの具体的で貴重な話が聴けた。
- ・サキタリ洞の旧石器人もモクズガニの旬を楽しみに食べていたと推測され、当時の人類が身近に感じられ、さらに興味が深まった。

### 4 課題

- ・連絡なしの不参加者が3分の1近く発生した。コロナ陽性者が増え外出を控えたためと思われるが、キャンセル連絡をしていただくよう呼びかけが必要。